

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第142号

「イモリの成長を見守った夏」

2024年9月16日

今年の春生まれたアカハライモリの赤ちゃんたち。ふ化から3～5か月経ちました。

この夏、ご来館の皆さまにも一緒に成長を見守ってもらえればと、6月中旬から観察ブースとリレー絵日記を設置していました。たくさんの方にほぼ毎日観察していただき、とってもユニークで愛に溢れた日記ができました。ありがとうございました！



パラパラ眺めるだけで楽しい絵日記！

せっかくなので、私たち天空の里のスタッフの描いた絵日記とともに、イモリたちのこの夏の成長を振り返りたいと思います。

まず最初はふ化！直径3mmほどのたまごは水草にクルッと包まれていました。生まれた赤ちゃんイモリの体長は10mmほどでした。肢はなく、あごの下からは баланサーが生えていました。



生まれた頃はまるでメダカのような姿

ふ化から5日ほど経つと、バルンサーが消え前肢が生えてきました。そこからさらに5日経つと、エサのアカムシを食べ始めました。ピューッと素早く泳ぐ様子が印象的だったようです。顔の横から生えているエラがウーパールーパーに似ていると書いてくださった方が多くいました。



ふ化からたったの5日で前肢が生えました！

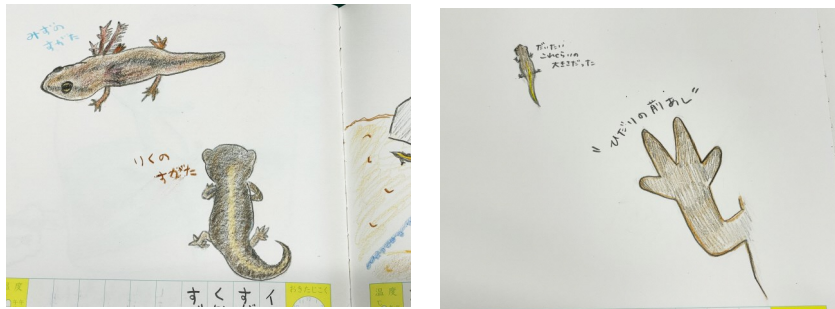
7月の始め、ふ化から2週間経ち、後ろ肢が生えました。この頃はとても暑い日が続いていたので、水中で涼し気に暮らすイモリの赤ちゃんをうらやむ声が相次ぎました。体長はあまり伸びず15mmほどだったようです。身体が半透明で、食べたアカムシが透けて見えるところが面白かったようです。



この頃は特に食欲旺盛だったのか、採食シーンがよく描かれていました

7月下旬、ふ化から40日ほどが経ち、始めの1匹が上陸しました！この時、イモリの赤ちゃんはエラがなくなり、肺呼吸になりました。この身体の変化を変態といいます。観察してくださった方の多くが、上陸した個体がケースの壁を忍者のようにはべりついてのぼっている様子を描いてくださいました。お腹はまだ赤くなく、黄色っぽい色をしています。体長は30mmほどになりました。変態から5日間ほどはエサを食べません。再びエサを食べるようになると、その食べ方はこれま

でヒュッと吸い込むように食べていたのですが、パクッと食らいついて食べるように変化しました。上陸したものの、ピンセットからうまくエサを食べることができない個体もあり、少々手を焼きましたが、最近ようやくピンセットからもエサを食べられるようになり、ホッとしました！



上陸するとみんなペタペタと壁をよじ登るのはなぜだろう？

イモリの赤ちゃんたちは、夏休みの終わりと同時にすべての個体が変態し上陸しました。現在、イモリの赤ちゃんはいきものコーナーへ移動し、引き続き展示しております。観察日記は図書コーナーにありますので、ぜひご覧ください。これからまだまだ小さい赤ちゃんたちが親イモリたちと同じように再び水中で生活をするようになるまでには、およそ2年ほどかかるようです。これからもじっくり赤ちゃんの成長を見守っていただければと思います。



お母さんイモリのおくび

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：ほっぴー